

弁護士生活 1 年目に税理士法人で勤務してみたこと

会員 内野 真

1 税理士法人で働くに至った経緯

私が採用された弁護士法人は、もともと税理士法人のインハウスのローヤーが設立した事務所である。

弊所の弁護士の多くは、税理士法人で勤務してから、法律事務所勤務するケースが多かった。そして、私もまた法律事務所の方針で、税理士法人に「出向」という形で弁護士 1 年目を過ごすことになった。

2 私が勤務していた税理士法人について

私が勤務していた税理士法人は比較的規模が大きく、勤務しているのは、税理士だけではなく、公認会計士や弁護士のほかまだ資格を持っていない税理士試験科目合格者、金融機関からの出向者など様々である。

学歴も専門学校卒から大学院卒まで多様であり、年齢も 20 歳から中高年まで幅広く、新卒の入所者、他の事務所から転職してきた人など背景も様々であった。また、正社員として働きながら試験勉強をしている人、科目免除を得るために大学院に通う人なども少なくない。

資格のない人であっても、税務・会計の高度な知識を持っている人は数多くいて、そのような人たちもまた税理士法人では重要な戦力であり、私も資格の有無にかかわらず多くの先輩方からたくさんのことを学ばせていただいた。

私にとって税理士法人での 1 年間はいわば「毎日が異業種交流会」であった。

3 税理士法人での仕事

税理士法人は弁護士法人以上に「会社」に近く、たとえ資格を持っていても、入社 1 年目であれば電話取り等の雑務も当然するのである。

もちろん、雑務以外にも税理士法人のメンバーの一員として税理士と同じような仕事もしてきた。私は税理士

法人勤務中に税理士登録をしていたわけではないので、対応可能な仕事には制約はあった。それでも、所得税や相続税、法人税の申告業務の税理士の補助、非上場株式の株価算定など幅広い分野を扱うことができた。

どの申告業務も、顧客から預かった大量の資料の中から必要な数字をエクセルでまとめ、会計ソフトを使って申告書を作成するが、何が必要な数字かを判断するには、当然ながら税法と通達の理解が必要であり、決して簡単なものではなかった。

資料の中から、必要な数字を見つけていく作業は我々弁護士が裁判所に提出する証拠を選別していくプロセスにかなり近いように思えた。また、税理士の場合、数字の正確性については、特にシビアであり、数字という観点から証拠を見ていく力をこの 1 年で養うことができたように思う。

4 間近で税理士を見て思ったこと

税理士もやはり法律家であるということである。私たち弁護士は税務・会計にはあまり馴染みがないため税理士という職業を意識することは多くないかもしれない。

しかし、彼らもまた我々弁護士と同じく依頼者のために証拠を用いて事実を認定し適切な税法を適用する法律家である。同じ法律家として、彼らに負けないよう日々の勉強を怠ってはならないと感ずることができた 1 年であった。

5 最後に

私の税理士法人での 1 年間はあっという間に終わってしまったが、上司や先輩、同期には大変恵まれており、右も左もわからなかった私にたくさんのことを教えてくださった上司・先輩・同期にはこの場を借りてお礼を申し上げたい。